

1. 図書館建築はそれぞれごとに正解がある

建物は「働きとしての図書館」の器 → それぞれの役割, 運営方針, 利用者 → 役に立つ建物
 建物はある固有の場所に建設される → 特有の条件・制約 (物理的・社会的環境, 地盤, 法律など)
 → 固有の条件に合わせ, もっと多様性と個性をもった建築が追求されるべき
 活動は変化するが, 建物は容易には追従できない。時として器が活動を制約することもある
 → 将来の活動の変化の方向を予測し, それに対応できる建築を創造する

2. 大学図書館の分類

機能上から …… 総合図書館, 研究図書館, 学習図書館, 保存図書館
 組織上の位置づけから …… 本館, 分館, 部局図書館
 施設形態から …… 単独館, 複合館 (間貸し型, 間借り型)

3. 配置計画

利用しやすい位置, 分かりやすい位置

- ・利用者の日常的な生活動線の上に → キャンパス入口, 中央広場, 食堂に接して, 学部棟入口
- ・学部のグルーピングとの関係 → 利用者の全体としての移動距離が少ない
- ・図書館相互の位置関係 → キャンパスプランニング上の課題

4. 規模計画 (延床面積と各部の面積配分)

4-1 全体規模 (基準, 法規, 予算, その他から延床面積の上限値が設定されることがある)

国立大学図書館協議会平成3年6月『図書館建築基準に関する報告』による「基準面積算定式改訂試案」

$$S = 1.8U + 3.5G + 5.3 (1.5R - 0.21U - 0.336G) + 80T + 500$$

R = 当該団地の全蔵書冊数 (単位: 千冊, 未満切り捨て)

U = 当該団地の学部, 一般教養, 専攻科, 別科, 短大の学生定員

G = 当該団地の大学院完成定員

T = 受入雑誌タイトル数 (単位: 千タイトル, 未満切り捨て)

-1 () 内が負数になる場合は0とする

-2 図書館本館の面積については上記算式により算出した面積にさらに500m²を加算する。
 但し, 加算は大学1カ所とする。

■現行 (文部省編「国立学校建物必要面積基準書」1978)

$$S = 1U + 2G + 5.3 (1.5U - 0.1U - 0.16G) + 300$$

-1 全学で1館に限りさらに300m²加算できる

改訂の必要性: 現行算定式では考慮されていない点 (同報告より)

1. インテリジェント化, ニューメディア関連スペースの増加 (OPAC, CD-ROMなど)
2. 大学の国際化と増加する留学生
3. 定員以外の学生 (研究生など) 並びに教官の利用
4. 「ゆとり」への対応
5. 生涯学習への対応 ← 大学図書館の一般開放

4-2 積み上げ方式: 本質的には図書館の面積は, 計画図書館の果たすべき役割, 活動内容, サービス方針から必要な室・スペースなど (参考表) の構成要素を決定し, それぞれごとに収容する資料数 (必要となる書架数に換算して), 座席数その他の設備の数と単位面積などから必要な床面積を算定して積み上げることで求めべきである。しかし, 積み上げ式だけで決定できることはまれで, 上記の全体面積との間でいくつかの各部面積の配分試算を行うことで適正な全体規模とその配分を決定する。

[参考-1]

表：構成要素別スペース

目的	構成要素	室・スペース	主要内容
利用	入口	入口ホール ロビー (軽読書スペース) 貸出カウンター	ブックポスト・傘立て・B.D.S. 展示スペースなど 一般雑誌・新聞など 貸出・返却, 総合案内, 入退館管理
	目録・参考業務	目録検索スペース	OPAC端末スペース
		参考図書閲覧室	参考図書, 二次資料 参考業務デスク 情報検索用端末コーナー 複写設備
	閲覧	開架資料室 ・一般開架資料室 ・雑誌閲覧室 ・新聞閲覧室 ・指定図書閲覧室 ・特殊資料室 ・貴重資料室 ・視聴覚資料室	・主題部門別開架室制 ・資料種別開架室制 OPAC端末スペース 資料配架スペース 資料展示スペース 閲覧座席スペース 相談業務スペース ラウンジスペース
	その他	グループ研究室 グループ学習室 演習室 資料複写スペース 喫煙室	図書館資料を利用するグループ研究 図書館資料を教材とする演習
収蔵	書庫	一般書庫 保存書庫 貴重書庫 視聴覚資料庫	安全開架式書庫 閉架式書庫 通常型書架, 集密書架, 積層書架 自動書庫
業務	総務	館長室兼応接室 各役職員室 一般事務室 会議室	庶務・会計
	整理	整理事務室 印刷・複写室 視聴覚資料制作・編集室 製本準備室 荷解き室, 消毒室 倉庫	
	情報管理	情報管理室	コンピュータ室など
	閲覧業務	閲覧事務室	
	その他	休憩室・更衣室	
施設維持	機械室・電気室・施設管理室(延床面積の10%程度), 廊下, 階段, 便所など		

参考資料：国立大学図書館協議会『図書館建築基準に関する報告』平成3年

[参考-2] 大学図書館を取り巻く環境の変化

